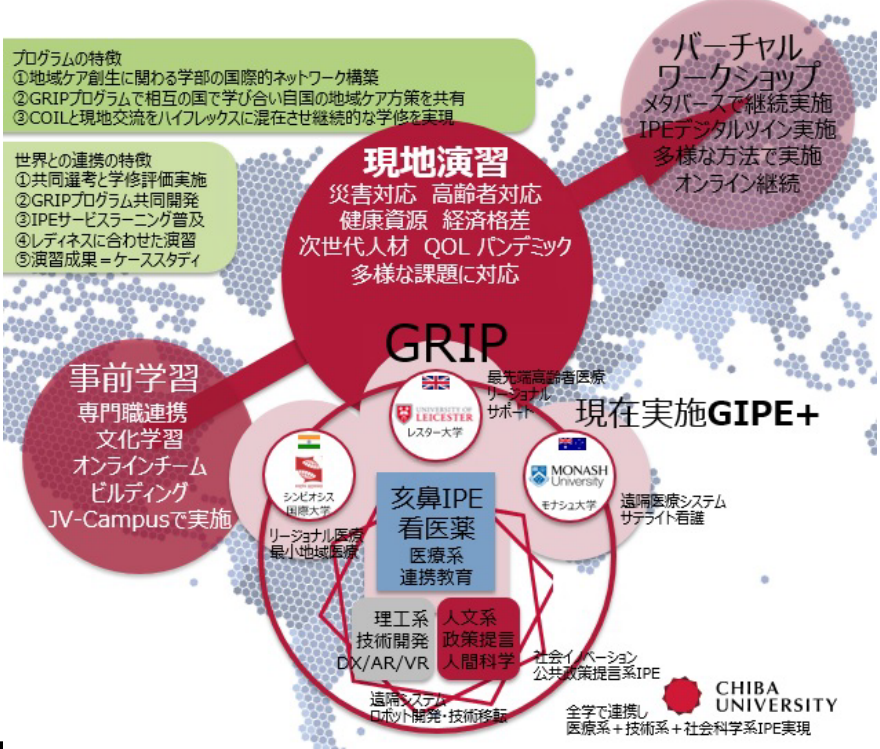


【事業の名称】(選定年度2022年度)

グローバル地域ケアIPEプラス創生人材の育成 (GRIP Program)
Global & Regional Interprofessional Education Plus Program

【交流推進事業の概要】



【交流プログラムの概要】

世界中の多様な「地域特有の健康課題」に取り組み、それぞれの現場での最適解を導き出す人材を育成するため、本学で2007年から実施している医薬系学部を横断した「専門職連携教育プログラムー亥鼻IPE」を全学に発展させ、さらに複数の国の複数の専門領域の学生がお互いに学びあうプログラムとなっている。JV-Campus等を活用した事前学習ののち現地演習を経て、バーチャルワークショップで共有していく。

【本事業で養成する人材像】

どの国、どの地域であっても、自国でも他の国でも健康関連の課題に他の専門職とともに取り組み、文化的対応能力及び文化的謙虚さを基盤として、現場での最適解を導き出すことができる自律した組織人。SDGsの開発目標3「すべての人に健康と福祉を」を実現し、WHOが提唱するUniversal Health Coverage「全ての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態」の推進のために、地域ケアを創生できる専門職を養成する。

【本事業の特徴】

- 1. 地域ケア創生に関わる全学部及び全大学院が参加し、国際的な「地域ケア創生ネットワーク」を構築する
- 2. IPEを基盤とした専門領域の異なる学生による相互の知識提供で、地域ケアのサービスを構築し実施する
- 3. COIL-JUSUとグローバルIPE(現地交流型)を組み合わせ、継続的アクティブラーニングで、学習の相乗効果を得る

【交流予定人数】

		2022	2023	2024	2025	2026
派遣	実際に渡航する学生	0	0	0	0	0
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	0	0	0	0	0
	実渡航とオンライン受講を行う学生	10	15	20	30	40
受入	実際に渡航する学生	0	0	0	0	0
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	0	0	0	0	0
	実渡航とオンライン受講を行う学生	10	15	20	30	40

1. 取組内容の進捗状況(2022年度)

【千葉大学】

【事業の名称】(採択年度 2022年度)

グローバル地域ケアIPE+創生人材の育成

(Global & Regional Interprofessional Education Plus Program: GRIP Program)

■ 交流プログラムの実施状況



〈インドでの現地演習の様子〉

本プログラムは、日本、インド、イギリス、オーストラリアからの多様な専門性を持つ学生たちがチームを形成し、お互いに学び合いながら自国や渡航国の社会課題解決に取り組むものである。2022年度はインドのシンビオシス国際大学と連携し、インドでは「貧困や障害等の困難な状況下の子どもの支援」、日本では「高齢者の健康と地域包括ケアシステム」をテーマにプログラムを実施した。オンラインでの事前学習と現地演習を経て、年度末には両国の学生と教員参加の成果発表会をMetaverse上で開催した。両国の学生たちは、渡航中のみならず事前学習から渡航後の成果発表までMetaverse上で積極的に交流を深め、学習活動を遂行した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本からは10名の学生が2023年2月13日から22日までインドに滞在し、スラムや山村地域、障害者施設等において演習を実施した。支援活動に参加しながら困難な状況にある子どもたちの現状や支援について当事者と支援者の視点から学びを深めた。

○ 外国人留学生の受入

インドからは2023年2月28日から3月9日の10日間、10名の学生が日本に滞在し演習に参加した。日本では、地域の高齢者の健康を支える訪問看護ステーションや、高齢者自身が運営するカフェや自助グループ、さらにホームレス支援団体や災害準備教育の実施団体等の活動に参加し、人口増加中のインドとは全く異なる本邦の社会状況やそれに対する多様な取組について学習・検討した。

	2022	
	計画	実績
学生の派遣	10	10
学生の受入	10	10

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本プログラムは、一部の学部間の交流ではなく全学を対象としている点や、各参加国が抱える地域社会課題の解決を目指す点、さらに本学が核となって複数海外提携大学との連携を行う点が特徴である。そのため、シンビオシス国際大学（インド）の国際教育センター（SCIE）の他、レスター大学（イギリス）、モナシュ大学（オーストラリア）の専門職連携教育のステークホルダーや学部長、統括部長らとミーティングを重ね、連携枠組みについて合意を得た。さらにこれらの関係者も含めてプログラム評価委員会を組織した。2023年度以降の事業実施のために調整を継続中である。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

安全な受入/派遣のための環境整備として、日英印の会話が可能な教員やコーディネーターによる渡航前オリエンテーションの実施、現地演習中のグループチャットを利用した情報共有と遠隔支援の他、24時間日本語と英語での緊急対応が可能なネットワークを構築した。これにより、派遣中に体調を崩した学生へも早急な対応が可能となり、派遣/受入中の学習活動を安全に行うことができた。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

本学とシンビオシス国際大学とは2019年度より国際交流を継続してきたが、本事業の実施に伴い新たに大学間MOUを締結したことで今後より密接な国際交流の実施が可能になった。本プログラムに関する情報はホームページに集約されており、情報を公開している。また、採択率40%の国際学会 All Together Better Healthにて応募演題が採択され、世界の専門家に向け、学修プログラムの紹介と2022年度の定量的・定性的な成果も含めた発表を行う予定である。

■ グッドプラクティス等

国や時差を超えて学生や教員が交流し学習活動の質を高めるため、いつでも入室可能な仮想空間であるMetaverseを活用した。事前学習の段階から帰国後の最終プレゼンテーションの準備、そして成果発表会まで、学生たちは積極的にこの新たな学習プラットフォームを活用しており、お互いの理解や思考の深化や学習目標の達成が促進された。



〈Metaverse上での成果発表会の様子〉

2. 取組内容の進捗状況(2023年度)

【事業の名称】(採択年度 2022年度) グローバル地域ケアIPE+創生人材の育成
(Global & Regional Interprofessional Education Plus Program: GRIP Program)

■ 交流プログラムの実施状況



〈インドでの現地演習の様子〉

本プログラムは、日本、インド、イギリス、オーストラリアからの多様な専門性を持つ学生たちがチームを形成し、相互に学び合いながら、渡航先等の世界各地特有の健康関連社会課題の解決に取り組むものである。2023年度は本学とインドのシンビオシス国際大学ならびにイギリスのレスター大学間とで学生交換を実施し、学生はインドでは「困難な状況下の子どもおよび女性への支援」、イギリスでは「ホームレス支援」、日本では「災害準備」「ホームレス支援」「ソーシャルキャピタル創出」をテーマにプログラムを実施した。オンラインでの事前学習と現地演習を経て、年度末には両参加国の学生と教員参加の成果発表会を対面ならびにオンラインのハイブリッドにて実施し、Metaverseでの成果閲覧等のワークショップを実施した。参加国の学生たちは、渡航中のみならず事前学習から渡航後の成果発表までオンラインならびに対面でも積極的に交流を深め、学習活動を遂行した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本からはインドに10名、イギリスに5名派遣し、2024年2月中旬にそれぞれ約2週間滞在した。現地ではそれぞれテーマに関連した施設を訪問・見学するだけでなく、講義やディスカッションを交えることにより当事者と支援者の視点から学びを深めた。

	2023	
	計画	実績
学生の派遣	15	15
学生の受入	15	15

○ 外国人留学生の受入

インド、イギリスより2024年3月初旬の8日間、計15名の学生が日本に滞在し、両大学の混合チームを形成して演習に参加した。ホームレス支援NPOや防災アプリでの市街探索、災害拠点病院視察、子供支援NPO等の訪問により世界各地に共通する社会課題の解決に向けて、日本で行われている様々な取組について学習・検討した。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本プログラムは、一部の学部間での交流ではなく全学を対象としている点や、各参加国が抱える地域社会課題の解決を目指す点、さらに本学が核となって複数海外提携大学との連携を行う点が特徴である。そのため、シンビオシス国際大学（インド）の国際教育センター（SCIE）の他、レスター大学（イギリス）、モナシュ大学（オーストラリア）の専門職連携教育のステークホルダーや学部長、統括部長らとミーティングを重ね、連携枠組みについて合意を得た。さらにこれらの関係者も含めてプログラム評価委員会を組織した。2024年度以降の事業実施のために調整を継続中である。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

安全な受入/派遣のための環境整備として、日英印の各言語での渡航前オリエンテーションの実施、現地演習中のグループチャットを利用した情報共有と遠隔支援の他、24時間日本語と英語での緊急対応が可能なネットワークを構築した。これにより、派遣中の学生に対し、複数の教員やコーディネーターによる適時かつ早急な対応が可能となり、派遣/受入中の学習活動を安全に実施できた。大学院副専攻-普遍教育課程として、2023年後期に国際保健関連授業7科目を開講した。また、「専門職連携実践（IPW）と教育（IPE）の意義と歴史的背景」の動画をJV-Campus上に掲載済みである。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

2023年度より本学とシンビオシス国際大学とは本事業の実施に伴い新たに大学間MOUを締結したことで、双方の学生に対し単位認定・付与（2単位）を実施した。

日・印の高齢者のQOL比較等の研究、日・印での災害準備に関する協同プロジェクト企画などがすでに始動している。さらに、本事業成果のIPE（専門職連携教育研究）国際学会での発表を基盤として、IPE有識者を擁する中東や南アフリカの大学との連携に向けて調整中である。

■ グッドプラクティス等

本事業の開始後、派遣学生25人、受入学生25人の計50人のプログラム修了者を輩出している。中には本プログラム参加を契機に公衆衛生大学院への進学、同サークルに参加する学生や、イギリスからの受入学生が日本での訪問先関係者(医療者)への個別での再訪問を予定するなど、学生の国際指向の向上やさらなる国際交流推進等の波及効果が認められる。



〈Metaverse上での成果発表会の様子〉

3. 取組内容の進捗状況(令和6(2024)年度)

【千葉大学】

【グローバル地域ケアIPE+創生人材の育成】(採択年度 2022年度)
(Global & Regional Interprofessional Education Plus Program: GRIP Program)

(1) 交流プログラムの実施状況



〈 SIUインド派遣時の様子 〉

本プログラムでは、日本、インド、イギリス、オーストラリアからの多様な専門性を持つ学生たちがチームを形成し、相互に学び合いながら、渡航先等の世界各地特有の健康関連社会課題の解決に取り組むものである。
2024年度で本プログラムは3年目となり、協定校としてオーストラリアよりモナシュ大学が加わり計画通り3大学と学生交換プログラムを実施している。2024年度の学生の派遣・受入数は、ともに各20名であり、合計40名の学生交換を実施した。

学生が取り組む社会課題は、インドでは「困難な状況下にある子どもおよび女性への支援」、イギリスでは「ホームレス支援」に加え、新たに開始したオーストラリアでは「高齢者支援」とした。日本では「災害準備」「ホームレス支援」に加え、2024年度は新たに「非都市部での保健医療アクセス支援」「障害者の社会参加支援」をテーマとしてプログラム開発を行った。本プログラムの特徴として、参加学生を医療系学生のみならず、理工、教育、商学、デザイン、国際教養学部などの非医療系学部をも対象としていることである。参加学生は各自の専門性の観点から、課題解決に向けた実現可能な取り組み等について、現地の専門家から説明を受け、ともに活動に参加しつつ議論を行うことにより理解を深めた。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣
千葉大学からはインドに10名、イギリスに5名派遣、オーストラリアに5名を派遣し、2025年2月から3月にかけて、それぞれ約2週間現地に滞在した。現地ではそれぞれテーマにそって提携大学教員による講義の受講、現地学生とのディスカッションを行うだけでなく、関連施設を実際に訪問し実際に行われている取り組みを見学することで、当事者と支援者の双方の視点から理解を深めた。

	2024	
	計画	実績
学生の派遣	20	20
学生の受入	20	20

○ 外国人留学生の受入
インド、イギリスより計20名の学生が、2024年5月ならびに2025年3月初旬の約10日間、日本に滞在し、演習に参加した。非都市部での保健医療アクセス支援、ホームレス支援、災害準備をホームレス支援NPOや防災アプリでの市街探索、災害拠点病院視察、障害者の社会参加支援を行う社会福祉法人への訪問により、世界各地に共通する社会課題の解決に向けて、日本で行われている様々な取組について学習・検討を行った。



〈 レスター大生受入時 〉

(2) 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

イギリス・レスター大学との連携は2024年度に大学間MOU締結へ発展し、これにより、社会課題解決演習(ISL)の学修成果が双方で単位認定されるシステムが実現し、質の高い教育と国際的な互惠性が確保された。
レスター大学では2024年度によりISL+インターンシップ統合プログラムを開始している。ISL参加した医学部生2名は、ISL後、現地医療機関でインターンシップを実施し、より包括的で実践的な臨床上の問題解決能力を養った。
GRIP副専攻制度については、2023年度後期より「大学院国際実践教育GRIP」を開講し、全学共通7科目(8単位)履修で修了認定する仕組みを整備したが、2024年度は初となる大学院国際実践教育GRIPの修了認定者を輩出した。同時に、さらなる履修ならびに修了者輩出推進のため、大学院看護学研究科内に全学共通科目としてグローバルヘルス関連の授業開設の準備に取り組み、2025年開設に至った。



〈 SIU大生受入時 〉

(3) 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、成果の普及

- 海外連携ネットワークの拡充: 2024年10月、GRIP推進室教員がIPEを実装する海外の5大学を訪問し、学生交換や共同研究、シンポジウム企画を進めた。学生・教職員の国際協働経験が拡大し、発信力と連携実績が向上した。
- 国際学術イベントの開催: 2024年度は2件の学術イベントを開催した。IPEとサービスマーケティングの実践例や国際連携、教育モデルなどを議論し、ネットワークや教育内容の深化に寄与している。
- 英語による学修活動の推進: 教材や活動、各種発表を英語で行い、副専攻科目も日英併記化している。非医療系学部を含む多様な学生が国際保健教育を英語で受講している。
- グローバル人材の育成: 学生はGRIP参加を契機に国際大学院や海外研究、国際保健学プログラムに積極的に参加し、グローバル人材が育成されている。
- 国際的な研究活動とネットワーク形成: 本事業を契機に高齢者QOL国際比較や災害準備の共同研究が開始され、国際誌論文発表や世界的研究者との連携強化など、多様なネットワーク構築が進んでいる。
- 組織・地域の国際化と連携促進: ISLの受入施設で英語による交流や資料作成を実施し、受入施設の国際化と多文化理解を促進している。地域住民との共同授業作成や「リビングラボ」協定要請もあり、国内外との連携がさらに広がっている。

(4) 特記すべき取組(GP)

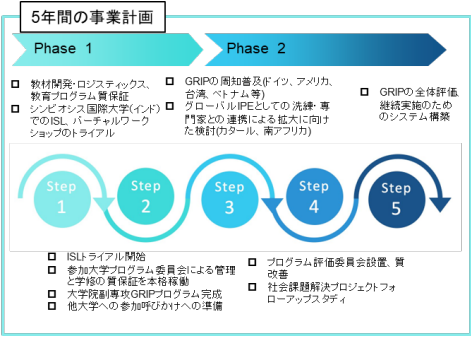
本プログラム5か年計画(右図)の3年目(PHASE2)となる2024年度は、「GRIPの周知普及(アメリカ、台湾、ベトナム等)」と「グローバルIPEとしての洗練・専門家との連携による拡大(カタール、南アフリカ)」の2点を重点目標として取り組みを展開した。

この計画のもと、2025年1月25日に千葉大学主催でオンライン開催された国際シンポジウム「Global & Regional IPE+シンポジウム2024年度」では、「世界の多職種連携教育のトレンドと展望～ユニバーサルヘルスカバレッジを目指して～」をテーマに、IPE(専門職連携教育)とサービスラーニングの国際的動向や意義について各国の専門家が議論した。イギリス、カタール、南アフリカ、インド、日本、カナダの登壇者が多様な実践や課題を報告し、UHC(ユニバーサルヘルスカバレッジ)実現に向けたIPEとサービスラーニングの役割、そしてGRIPプログラム国際モデル化への期待が示された。アンケートでは満足度が高く、他国事例との比較や実践手法の学びに意欲的な回答が集まった。



〈フリーステート大学・南アフリカ IPE実施施設訪問時のGRIP教員〉

さらに、2025年3月9日に千葉大学およびオンラインで開催された「Global & Regional IPE+フォーラム」では、「サービスラーニング×IPEが拓く協働の未来」をテーマに7カ国の登壇者を迎え、IPEの国際展開と実装について多角的な議論が行われた。各国のIPE実装状況の紹介や、学生の共感力・多様性理解の深化、地域社会との接点の拡大など教育効果が確認され、現場での課題や戦略についても建設的な意見交換がなされた。アンケート結果からは、IPEとサービスラーニング融合型教育への期待や今後の国際連携強化の必要性が示された。



CHIBA UNIVERSITY | GRIP | Global & Regional Interprofessional Education Plus Program | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS | IPE

文部科学省大学の世界展開力強化事業

Global & Regional IPE+ シンポジウム

世界の多職種連携教育のトレンドと展望
～ユニバーサルヘルスカバレッジを目指して～
Global Trends in Interprofessional Education-Towards Achieving Universal Health Coverage

Part 1 パネリスト報告・発表

Global IPE trends and their respective challenges

開催日時: 2025年1月13日(月) 祝
開始予定: 2025年1月13日(月) 祝
開催方法: GRIP Webサイト掲載の動画をオンデマンド視聴
言語: 日英字幕あり

Part 2 パネルディスカッション

The Impact of Promoting Interprofessional Service Learning on Universal Health Coverage

開催日時: 2025年1月25日(土) 18時00分(日本時間) 開始
開催方法: ウェビナーでのリアルタイム・オンラインセッション
言語: 日英同時通訳あり

参加費無料!

パネリスト

- プロフェッショナル コレクション J.H.V. キーノート教授
- 千葉大学 IPERC センター 湯井和子教授
- メソッドズ 多職種連携教育プログラムディレクター J.H.V. 教授
- カタール大学 多職種連携教育プログラムディレクター イシ博士
- フリーステート大学 国際化推進部、リサーチ・プログラムマネージャー C.V. フォン・アール教授
- シンポジウム国際大学 コミュニティ・アクト リサーチ・プログラムマネージャー L.ダニエル助教

IPE(専門職連携教育)が目指すのはユニバーサルヘルスカバレッジです。そのために世界の各地でIPEが推進されています。住民とともにそれぞれの専門職が、ともにお互いにお互いから学びあうの質を向上させていくために、その国やエリアの社会課題に対応するサービスラーニングを含んだIPEが必要となります。世界のIPEとサービスラーニングについて共有し話し合うシンポジウムにぜひご参加ください。

〈国際オンラインシンポジウム告知ポスター〉

(5) 主な成果・アウトカム

本プログラムは、学生が現地での実践的な学びや国際的な社会課題に直接触れることを通じて、専門分野でのさらなる学修や研究、そしてSDGs達成に向けた主体的な社会参加を後押ししている。本プログラムに参加した学生たちは、後に、自らの関心と専門性を深めつつ、大学院進学や研究テーマの設定、社会貢献活動など、多様な活動を展開している(下表参照)。

本学国際教養学部在籍し、インドでのプログラムに参加した学生は、現地で社会的課題の実情を体感し、グローバルヘルスへの問題意識が高まったことで、その後、大学院に進学し、Master of Public Health in Global health (MPH)において研究に取り組んでいる。同じく本学教育学部出身学生も、インドの支援活動を経験後、多様な背景を持つ子どもたちへの教育支援の必要性を強く認識し、卒業後、大学院の国際協力関連のコースに進学し、インドの子どもへの支援に関する研究に取り組んでいる。3人目は工学部に所属し、イギリスでのホームレス支援をテーマにしたプログラムに参加した学生である。現地での課題解決型活動の経験に基づき、ホームレス支援を自身の卒業研究テーマとした。加えて、学内のグローバルヘルス関連サークルにも自ら参加している。

上記の本学学生の他にも、海外提携大学の参加学生が、自国においてISLの実践報告発表や、施策への提言を実施するなど、本プログラムの効果として、多くの参加学生のキャリア開発や実際の社会課題解決実践等のインパクトが確認されている。これらの事例は、GRIPプログラムが学生に専門性と国際的視野をもたらすと同時に、SDGs達成に向けた実践力や社会課題への主体的な取り組みを促進していることを示す好例である。



〈インドにてNGO団体訪問時の本学学生〉



〈本学学生がレスター大にてホームレス支援に関する講義を受けている様子〉

	参加年度 所属学部	訪問国 プログラムテーマ	現在の進路・活動	グッドプラクティス例
参加学生 1	2023年度 国際教養学部	SIU(インド) 「困難な状況にある女性や子どもの支援」	大学院のMaster of Public Health in Global Health (MPH) courseへ進学	グローバルヘルスへの進路選択
参加学生 2	2023年度・ 教育学部	SIU(インド) 「困難な状況にある女性や子どもの支援」	大学院の国際協力研究関連コースへ進学	国際協力への専門的発展
参加学生 3	2023年度 工学部	レスター大学(イギリス) 「ホームレス支援」	本学内のグローバルヘルス関連サークルに入会・参加 卒業研究としてホームレス支援関連のテーマを選択	社会課題解決型研究、持続可能な開発目標(SDGs)推進のための自発的な参画と実践